

平成28年度  
標準学力調査 結果概要

課題となる問題と考察

一 国語 一

●課題となる問題や傾向を、知識・理解／技能及び思考・判断・表現の観点で分析しています。

●表に掲載しているカテゴリーの説明は以下の通りです。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
5	1	ア	行動のよみとり	71	11	74	選択式

通過率：那覇市児童の正答率（％）

無答率：那覇市児童の無回答率（％）

全 国：全国児童の正答率（％）

形 式：解答形式

## 小学2年（小学1年学習内容）国語【知識・理解／技能】

問題5 【1・2学年 読むこと C（1）イウ】

### 【問題内容】

簡単な文章を読んで、登場人物の様子や行動を読みとることができるかどうかを問う問題。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
5	1	ア	行動のよみとり	71	11	74	選択式
		エ	行動のよみとり	54	28	52	選択式
	2	イ	人物のよみとり	88	6	85	選択式
		エ	人物のよみとり	87	10	87	選択式

### 誤答分析

5の1 ウを選ぶ誤答が多い。イ・ウはいずれも、問われている人物の行動ではなく、他の登場人物が行ったことなので誤答になる。

5の2 誤答にあたるア・ウはいずれも、問われている人物にはあたらないので誤答になる。

### 指導に当たって

短い文章であるが、この程度の分量からしっかりと人物と行動を読み取することを定着させていくことが重要である。

通過率を見ると、5の1のアは全国よりもわずかながら通過率が低く、また5の1のエでは全国は上回るものの、通過率が54％と約半数しか正答できていない。アを選べない理由としては、設問文をきちんと読み、「問われている名前（ゆうま）は、ぼく」であることを理解していないと考えられる。また、エを選べない理由としては、前述の理由に加えて、「Aは、BがCしたのを使ってDした」という文のDの行動が答えにあたるのだが、間に「BがCした」が入るので、間違えてCを選んでしまうということがある。低学年ではこのように、直近の要素に引っ張られて間違えてしまう誤りがよくみられるので注意したい。

### 指導例

#### ○劇ごっこ

この文章のように、登場人物が多い場合には、学級の児童に役を割り振って、「劇ごっこ」をするとよい。そうすることで、文章上では混同してしまう人物と行動が明確になる。その際に、同じセリフでも、「ここはどういう風にしゃべっているのかな？」と質問することで、「もっと嬉しそう／悲しそうだと思う」などという議論につながり、文章の理解が深まっていく。

## 小学2年（小学1年学習内容）国語【思考・判断・表現】

問題 13 【1・2学年 話すこと・聞くこと A（1）イ（2）ウ】

### 【問題内容】

先生からもらったメモをもとにみんなに連絡をするという場面で、必要な事をきちんと話すことができるかどうかを見る問題。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
13		ア	必要な事を連絡する	59	6	61	選択式
		ウ	必要な事を連絡する	65	8	64	選択式
		エ	必要な事を連絡する	48	11	47	選択式

### 誤答分析

イ・オを選ぶ誤りが非常に多い。

### 指導に当たって

この問題を解くためには、まず、メモの内容をしっかりと捉え、何を伝えるべきなのかを把握する必要がある。なんとなく関係がありそうな選択肢（「どんぐり」の言葉）ではなく、「どんぐりごまをつくることを連絡する」という伝える**目的を理解**し、伝えるべき**内容**として適切なものを答えることができるようにしたい。

通過率を見ると、ほぼ全国と同様の通過率であるが、正答を選べる児童が5～6割にとどまり定着が十分とは言えない。イ・オの誤答に関しては、「どんぐり」と書かれているのでつい選んでしまいがちであるが、メモにはない内容である。このような誤答に惑わされないために、伝えるべきことを自分の中できちんと位置付けられるようにしなければならない。

また、一番通過率の低いエを選べない理由としては、この選択肢が他の正答の選択肢とは異なり、メモの意味を全体から読み取らないとすんなりとは選べない表現になっているからであると考えられる（解説「どんぐりごまをつくること」ではなく「なにをつくるか」になっている）。ほんの少しの表現の違いだが、この違いによって理解に差がつく。

### 指導例

#### ○順番や内容の吟味

似たようなメモと選択肢を準備し、選択肢を大切な順番に並べてみるとよい。その順番をグループごとに話し合わせ、「こっちの方が大事だよ」「そのことは書かれていないよ」などと議論させることで理解が深まる。

#### ○伝言ゲーム

グループごとに分かれ、教師から初めの一人に伝えることを話し、メモを取らせ、次の児童に伝えていく。最後まで伝わったら答えあわせを行って、きちんと伝えられたこと・落としてしまったこと・余計な情報などが、なぜ、どのように伝わったのかを確認することで、聞いて伝える際に大切なことが実感を持って理解できる。

## 小学4年（小学3年学習内容）国語【知識・理解／技能】

問題 4 【3・4学年 書くこと B（1）アイエオ（2）エ】

【問題内容】

相手や目的に応じて書く上で必要な事柄を整理し、文章の常体と敬体との違いに注意し、文章の間違いを正すなどして、案内状などの手紙を書くことができるかどうかを見る問題。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
4	1	1	手紙に書く内容	69	1	70	選択式
	1	2	手紙に書く内容	58	2	60	選択式
	1	3	手紙に書く内容	72	2	71	選択式
	2	1	書き方の工夫	71	3	66	選択式
	2	2	大切なことを書く	78	3	75	選択式
	2	3	文末を正しく直す	44	6	48	短答式
	3		ふうとうの書き方	71	7	69	短答式

### 誤答分析

#### ● 4の1

「あいさつや相手の様子をたずねる言葉」が正答になるが、自分の名前を書いているので、「自こしょうかい」の語が含まれるウを選んだり、「お元気ですか」があることで、「相手のけんこうを気づかう言葉」の語が含まれるエを選んだりする誤りがみられる。

#### ● 4の2の3

文末を正しく直す問題について、常体を正しく敬体になおすことに課題がある。

### 指導例・指導に当たって

文末に気をつけて、文章を整えて書く事を日常化したい。

#### ①手紙の書き方の指導・

あいさつに始まり、本文で一番伝えたいことを書くこと、最後に結びの言葉や日付、宛名を書くことなど、基本的な手紙の形式はしっかりと確認させる必要がある。何種類かの手紙文に触れさせ、これらのことは共通であることを押さえさせたい。

#### ②手紙を書くときの留意点

形式だけにとらわれてしまい、手紙を書くこと自体を「面倒くさい」「難しい」と思わせないように気をつけたい。そのためには、手紙を書く相手のことをしっかり思い浮かべることが大切になる。読んでわかりやすいか、どう書けば喜んでもらえるか、失礼な書き方になっていないかということを考えさせ、できるだけ丁寧な字で書いたり、敬体でそろえたり、現在形や過去形の区別に注意を払ったり、読み返して表現の誤りなどを正したりすることなどを指導する。

#### ③手紙を書く場の設定

単元の学習の時だけで終わらず、お世話になった人（社会科見学の担当者や給食センターの方等々）に、手紙の形式にのっとって書く経験を日常的にさせるようにしたい。

## 小学4年（小学3年学習内容）国語 【思考・判断・表現】

問題 6 【3・4学年 話すこと・聞くこと A（1）アイウ（2）ア】

【問題内容】関心のあることから話題を決め、必要な事柄について調べ、理由や事例を挙げながら筋道を立てて話すことができるかどうかをみる問題。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
6	1	1	伝える内容を選び話す	72	5	66	選択式
	1	2	情報を収集して話す	74	6	71	選択式
	2	エ	伝える内容を選び話す	77	7	76	選択式
	2	オ	伝える内容を選び話す	66	8	62	選択式
	3		内容を整理しまとめる	72	9	67	選択式
	4	ア	発表の時の注意	72	9	75	選択式
	4	エ	発表の時の注意	76	10	78	選択式

### 誤答分析

#### ●6の2

イやウを選ぶ誤りが見られる。紹介する動物として「人間の手のように鼻を使う動物」を選ぶところで、メモの「水にもぐるとき、鼻の穴をしめられる」動物たちと混同している。

#### ●6の4

イを選ぶ誤りがやや多く見られる。発表では「わかったことを、調べたじゅんじょ通り話す」ことをすればよいと考えてしまっている誤りである。

### 指導に当たって

話す事柄について、理由や事例を効果的にあげることが意識させたい。また、活用する資料や文などが話す目的と関連づけてとりあげられていることに気をつけたい。

発表などをするときには、調べたことをそのまま話すのではなく、聞き手の立場に立って工夫するとよいことを理解させたい。料理を例にとって、材料をそのまま皿に盛るのではなく、食べやすい大きさに切ったり、きれいに盛り付けたりすることで美味しく食べられることになぞらえるのもよい。発表においては、調べたことを種類別にまとめて整理したり、伝えたいことが相手に伝わるように話の組み立てを考えたり、事例を挙げたりして話をしたりするとよいことを指導したい。また、声の大きさや速さにも気をつけさせたい。

### 指導例

#### 発表について

○話す内容について、しっかり理解していることが大切である。原稿を作る時に5W1Hを意識させ、話すときにそれらの要素を落とさないように気をつけさせたり、要点をまとめたスピーチメモを作らせたりする。

○全員の前で話すのではなく、4～5人のグループから始めて、そこでもらった意見や感想をもとに今度は別のグループで話すなどのステップをふませる。

## 【小学2年（小学1年学習内容）まとめ】

### 国語【知識・理解／技能】

○漢字の読みやひらがなの書き、文法など言語事項に関してはよく定着しており、望ましい状態にあると考えられる。

○ただし読むことにおいて、基本的な人物や行動の読み取りの部分で、単純な間違いがやや見られる。

### 国語【思考・判断・表現】

○漫然と読んだり聞いたりするのではなく、大事なことを押さえながら興味を持って、主体的に読んだり聞いたりする姿勢を育てたい。

○話すときや書くときには、思ったことや表現したいことをそのまま話したり書いたりではなく、順序を整理したり、簡単な構成を考えながら話したり書いたりができるようにしたい。

### 指導に当たって

---

○目的に応じて中心となる語や文をとらえたり、時間や場所、場面の变化など基本的な構成要素を理解したりするためにも、自分自身で内容を判りやすく整理することができるような力を身につけたい。

○記述問題で無回答が見られる。日頃から、自らの言葉で説明するような場面を取り入れ書くことそのものに慣れ親しませたい。

## 【小学4年（小学3年学習内容）まとめ】

### 国語【知識・理解／技能】

- 国語辞典の見出しについては、難しい問題であるが全国に比べ高い通過率となっているので、辞典の活用を日々の活動に取り入れさらなる定着を図りたい。その他の言語事項についても、繰り返し学習が定着の要になるので、日ごろの指導に取り入れていきたい。
- 「読むこと」や「書くこと」において、感覚的に関係のありそうな答えを選んで間違えてしまう傾向が見られる。

### 国語【思考・判断・表現】

- 記述問題で無回答が見られる。日頃から、自らの言葉で説明するような場面を取り入れ書くことに慣れ親しませたい。
- 後半の無答率が高い。一問一問の解答に時間をかけすぎていることが考えられる。何を問われているのかをすばやく読み取って、答えていく力も養いたい。

### 指導に当たって

---

- 手紙を書いたり、発表したりという、コミュニケーションを伴う活動が増えてくる。自分の内側にある言葉を適切に表現できるよう、語彙力や表現力を育てるとともに、伝えたいと思う内容を整理したり、簡単な構成を考えたりするスキルも培っていききたい。
- 読むことの活動においても、人物や行動という目に見えるものから、性格や気持ち、また説明文においては段落相互の関係や事実と意見との関係など、一段抽象のはしごを登ることになる。ここでつまづかないよう、毎時限の授業のポイントを明確にし、丁寧に指導したい。

平成28年度  
標準学力調査 結果概要

課題となる問題と考察

ー算数ー

●課題となる問題や傾向を、知識・理解／技能及び思考・判断・表現の観点で分析しています。

●表に掲載しているカテゴリーの説明は以下の通りです。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
14	1		減法の適用・式	76	4	80	短答式

通過率：那覇市児童の正答率（％）

無答率：那覇市児童の無回答率（％）

全 国：全国児童の正答率（％）

形 式：解答形式



## 小学2年（小学1年学习内容）算数 【知識・理解／技能】

問題 14 【1 学年 数と計算 A(2)アイ 数量関係 D(1)】

(問題 18 【数量関係 D(1)】)※観点は②だがひき算の基本的な問題として同時に分析

### 【問題内容】

14 具体的な場面で、減法を用いて答えを求めることができるかどうかをみる問題。

18 ひき算カードの並び方を見て、あてはまるカードを考えることができるかをみる問題。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
14	1		減法の適用・式	76	4	80	短答式
	2		減法の適用・答え	79	4	85	短答式
18	1		ひき算カード	59	30	65	選択式
	2		ひき算カード	55	30	61	選択式

### 誤答分析

- 引き算の場面で式を正しく立てることができない。
- ひく数、ひかれる数、答えの関係を見出せていない。
- 繰り下がりがある引き算の計算で誤りが多い。
- カードの並び方が理解できていないことが考えられる。

### 指導に当たって

1 年生で扱われる、1 位数＋1 位数とその逆の減法は、すべての算数の基礎となるので、きちんとおさえさせたい。この範囲での加法減法の計算パターンは決まっており、すべてを書き出して、その式や答えを並べてみると、ある規則性が見えてくる。例えば、たす数（ひく数）に着目してみたり、たされる数（ひかれる数）に着目してみたりして、これらと答えの関係を考えさせたい。そうした活動を通して計算の仕組みを理解させることも効果的である。

繰り下がりのある減法の計算では、筆算の指導につながるため、減加法を中心に指導するが、習得の途中では、減々法の方が、児童にとって理解しやすい場合もある。様々な考え方があることを認め、ブロックやおはじきなどの具体物を用いて、児童の発想を引き出し、楽しみながら十進位取り記数法に習熟させたい。

1 1 - 7

1 1 - 8

1 1 - 9

カードをよこ  
にみると…

1 1 - 6

1 1 - 7

1 1 - 8

1 1 - 9

カードをたて  
にみると…

1 1 - 5

1 1 - 6

1 1 - 7

1 1 - 8

1 1 - 9

13 - 4

3 1

【減減法】

4 を 3 と 1 に わけて

13 から 3 を ひいて

10 から 1 を ひいて

13 - 4

10 3

【減加法】

13 を 10 と 3 に わける。

10 から 4 を ひいて 6

6 と 3 で 9

## 小学2年（小学1年学习内容）算数 【思考・判断・表現】

問題 16 【1 学年 図形 C（1）ア】

### 【問題内容】

面の形を写し取ってかいた絵から、どのような立体かを捉えることができるかどうかをみる問題。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
18	1		積み木の面	58	20	64	選択式
	2		積み木の面	57	35	67	短答式

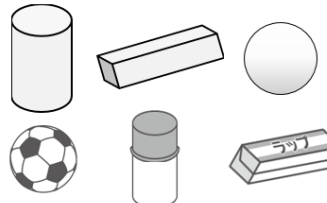
### 誤答分析

- ・立体における形を読み取る力が弱い。
- ・無答の児童が多い。

### 指導に当たって

小学1年の段階では、空間図形は、具体物を用いた活動が主となっており、立体を抽象化して捉えるのは難しい。その中では、立体を構成する面に着目させていく展開を意識的に取り込んでいく必要がある。例えば、三角柱は、長方形と三角形の面があるが、見た目で、「四角形はない」と判断しがちである。図形の面を一つ一つ写し取りながら、違う形があることに気付かせ、丁寧に扱っていく必要がある。また、大きさや、辺の長さなど、特徴にも着目させ、図形に対する豊かな感覚を養っていくようにしたい。

**立体の弁別ができる**  
よく にた かたちは どれかな。



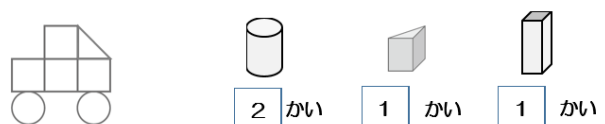
**立体の性質がわかる。**  
どんな ことが できるかな。

ころがすことができる

つむことができる

つんだり、ころがしたりできる

**写した形の弁別ができる**  
かたちを うつして えを かきます。  
どの つみきを なんかい つかったかな。





## 小学4年（小学3年学習内容）算数 【知識・理解・技能】

問題 3 学年 数と計算 8【A(2)アイ】 17【A(5)イ】 23【A(6)ウ】

【問題内容】

- 8 3 位数や4 位数の加法及び減法の計算ができるかどうかをみる問題。  
 17 1/10 の位までの少数の加法及び減法の計算ができるかどうかをみる問題。  
 23 簡単な場合について、分数の加法及び減法の計算ができるかどうかをみる問題。

問題番号	問題内容	通過率	無答率	全国	形式
8 1	4 位数の加法の筆算	89	2	90	短答式
8 2	4 位数の減法の筆算	72	3	79	短答式
17 1	小数の加法	85	7	88	短答式
17 2	小数の減法	60	8	65	短答式
23 1	簡単な分数の加法	83	15	86	短答式
23 2	簡単な分数の減法	61	16	70	短答式

### 誤答分析

- ・整数の減法では、4 位数を扱っているが、繰り下がりの操作で誤っている可能性が高い。特に、十の位が「0」であるときや、さらにその上の百の位から繰り下げなければならない場合の定着が弱い。

・小数では、「小数点」の位取りを誤って計算してしまうことが考えられる。例えば、「8. 5－2」の計算で「8. 3」と答えてしまうようなケースである。

・分数では、「1－1／3」のような、整数からの減法の計算の定着が不十分である。整数「1」は、どのようにも分数で表せることを、分数の仕組みを理解する中で定着させたい。

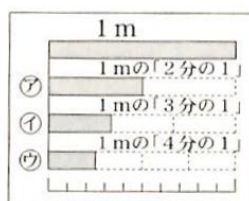
0.1 がいくつ分という考え方に、着目させて、考えさせたい。

5.4+3.2 の場合  
 5.4 は 0.1 が 54 こ  
 3.2 は 0.1 が 32 こ  
 あわせて 0.1 が 86 こ  
 だから、8.6

筆算では位をそろえて書くように注意させる。

8.5－2 の場合  
 〈誤答例〉  
 8. 5  
 - 2  
 8. 3  
 〈正答〉  
 8. 5  
 - 2  
 6. 5

「1 m の何分の1」について理解させる活動を丁寧に行う。



㊦は1mを2等分した1こ分  
 → ㊦の長さは1mの2分の1  
 ㊩は1mを3等分した1こ分  
 → ㊩の長さは1mの3分の1  
 ㊮は1mを4等分した1こ分  
 → ㊮の長さは1mの4分の1

### 指導に当たって

計算問題の指導では、繰り上がり・繰り下がりなど多くの児童が誤りやすい点については、授業の中で重点的に取り上げて指導したい。その際には「どうして誤ったのか、どのように誤ったのか」という視点で話し合ったり、人の意見を聞いたりすることによって定着が図られることもある。このような指導後に、そのポイントが確認できるような計算問題を何問か取り組ませたり、時間をあけて繰り返し取り組ませたりすることで、確実に習得させたい。

## 小学4年（小学3年学習内容）算数 【思考・判断・表現】

問題 20【3学年 A(2)アイ】

【問題内容】

□を用いて表された式について、具体的な場面を考えたり、当てはまる数を求めたりすることができるかどうかをみる問題。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
20	1	1	□を使った式・場面	69	13	73	選択式
	1	2	□を使った式・場面	56	14	62	選択式
	2	1	□を使った式・数	70	17	74	短答式
	2	2	□を使った式・数	47	17	49	短答式

### 誤答分析

- ・式を読み取ることの力が弱い。
- ・乗法除法の問題場面を判断することができていない。

n

### 指導に当たって

問題となっているのが、どのような場面かを読み取る力がついていない。扱われている数が単純な数であっても、それを「かけたらよい」のか「わったらよい」のか、混同していることが推測される。かけ算とわり算は裏返しであるが、問題文での事象がどのような場面であるのかを捉える力が必要である。また、この問いでは、わからない数を□を用いて式に表すので、それとも混同しやすく、かけ算なのか、わり算なのかを間違えやすい。文章から式化することとも併せ、式を図や言葉で説明するような授業展開が効果的である。

□を用いて表された式については、乗法除法が難しければ、加法減法から導入してもよい。例えば、 $3 + 2 = 5$  という式は、どんな場面が考えられるか、さらに、 $3 + \square = 5$  はどんな場面が考えられるか、では「□は何か」といった具合に、段階を追って展開していく。また、□を用いた計算式ができる問題場面を児童に作らせるのもよい。さらに、グループを作り、お互いにその問題を交換して、式にするとといった学習も考えられる。多様な問題に触れていく中で、□を用いた式の加減乗除を身に付けさせたい。

問題文がどのような場面かを読み取らせ、言葉の式や図などを使って考え、式化につなげる。

問題文

あめが同じ数ずつ入っているふくろが3つあります。  
あめの数は、全部で42です。  
1ふくろのあめの数は、何ですか。

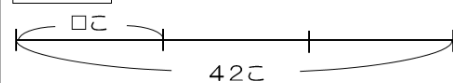
ことばの式

1ふくろの数 × ふくろの数 = 全部の数

式

$\square \times 3 = 42$

図



□は42を同じ数ずつ3つに分けた数だから、  
 $\square = 42 \div 3$      $\square = 14$     14

## 【小学2年（小学1年学習内容）まとめ】

### 算数【知識・理解／技能】

○加法減法における計算の基礎基本を繰り返し、徹底する。

○数の構成について理解させる。

### 算数【思考・判断・表現】

○図形においては、空間的な感性、平面的な感性を養えるようにする。

○表現する習慣を身に付けさせ、言葉として説明できる力を養う。

### 指導に当たって

---

○扱っている題材を、日常の身の回りにある事象と結び付けることで身に付けさせたい。

○「数と計算」の領域において、とくに、減法でつまづいている児童がみられる。個々になどのように間違っているのかを確認し、誤りやすいポイントは、一斉指導の中できちんと押さえていく。

○記述問題において無回答の児童が多数みられる。日頃の授業の中でも言葉で説明させたり、書いて答えさせたりするような学習を展開していく。

## 【小学4年（小学3年学習内容）まとめ】

### 算数【知識・理解／技能】

- 加法減法および乗法除法における筆算など、計算の基礎基本を繰り返し、徹底する。
- 小数や分数の仕組みを理解させ、加法減法の計算を定着させる。
- 式の意味を理解し、読み取ったり、表したりする力を養う。

### 算数【思考・判断・表現】

- 計算の仕組みを理解させ、「大きな数」となっても、基本的な事項を再確認した上で身に付けさせる。
- 図形においては、難度の高い問題にも取り組ませ、豊かな感覚を養う。
- 自分の考えを言葉で表現する習慣を身に付けさせる。

### 指導に当たって

---

- 算数の用語が徐々に増える学年である。それぞれの意味を適宜確認しながら、意味を理解、自分のものとして使えるようにさせたい。
- 「数と計算」の領域において、整数、小数、分数の計算で、減法の定着が低いことが考えられる。個々にどのように間違っているのかを確認し、誤りやすいポイントは全体として押さえていく。
- 記述問題においては、無回答が多数みられる。日頃の授業の中で、自ら書いて説明するような問題も扱っていくようにする。
- 一問一問に時間を掛けすぎていることも考えられる。問題では、何を問われ、何を答えたらよいかをすばやく読み取り、答えていく力も養いたい。